

## 中学2年4組 美術科学習指導案

指導者 錦 織 秀 行

ダンボールの素材において、さまざまな表現や表情を追求するために、グループで見つけた加工や組み合わせによって生まれたデザイン的な美しさのある模様や形について学級全体で話し合ったことは、新たな発想やよりよい表現方法へつなげていくことに対して有効であったか。

### 1 題材名 壁面アート・ダンボールの可能性を見つけよう

#### 2 授業の構想

(1) 本学級は、学習に対して意欲的に取り組もうとする生徒が多く、1学期に行った「四角形から生まれる不思議な世界(デザイン)」においても、デザインの学習を通して新たな素材に出会ったり制作方法や新しく扱う道具の扱い方などを習得したりしながら、自分なりの表現で意欲的に作品制作に取り組む姿が見られた。しかし、作品制作に対して事前調査をしてみると、「下描きはうまくいっても、着色がうまくできない」、「どんな色にしたらいいか悩む」、「アイデアが決まるまでに時間がかかる」など、苦手意識を抱いている生徒も少なくない。また、時間数が十分に確保しにくい状況からもこれまでの造形遊びの経験が十分でなかったり、立体作品に比べて平面作品が多くなったりする傾向がある生徒もいる。また、自分の意見を発表したり人に伝えたりする活動においても意欲的に行う生徒が決して多いとは言えない状況といえる。

そこで、本題材では半立体作品を取り扱い、ダンボールを用いて壁面装飾(レリーフ)を制作する中で、手で触ったり、表面を剥がしたり、丸めたり、重ねたりできるさまざまな要素を取り入れ、小学校でも慣れ親しんできているダンボールを素材として半立体の作品をつくることで、興味をもって学習できるように工夫した。また、課題設定の工夫により、学び合う場面を多く取り入れることで思考力・判断力・表現力を伸ばすことにもつながると考えている。さらにダンボールといった素材について表現の可能性を追求したり、アイデアスケッチについて意見交換を行ったり、完成作品について鑑賞し合ったりする場面では、学級全体及びグループによる話し合いや意見交換の場を設定し、自分の作品やグループの友だちの作品などについて、かかわり合いながらさまざまな意見を意欲的に発表し合い、お互いに高め合っているように計画している。

(2) 本題材では、身近な素材であるダンボールを用い、壁面装飾(レリーフ)作品を制作する中で、素材のもつ魅力的な部分や表現の可能性を探りながら、最終的に「壁面アート」として校内に展示するものである。ダンボールは一般的に日常生活で扱われており、梱包や収納など大変便利な素材であるが、作品制作においても入手しやすく、加工のしやすさや表現の多様性といった観点からみても大変魅力的な素材でもある。この素材に親しませ、改めてダンボールの魅力に気づかせながら、お互いに高め合って作品制作をさせたいと考えたため本題材で取り扱うことにした。

ダンボールの素材としての魅力をいかした作品制作として、ダンボールを切断したものや丸めたもの、中芯を見せるように何層にも重ねたもの、高さを変えて表現したもの、さらにはダンボールが集められたり重ねられたりすることにより現れる模様そのものが作品となるおもしろさは中学生にとっても新鮮であろうと考える。これらのさまざまな表情の面白さや不思議さをグループや学級全体での話し合いで探らせたいと考えている。そして、それらをいかしたパーツを誰でもイメージしやすく親しみやすい「花」というテーマでデザイン構成し、一人ずつ 210×140×40mm の箱の中に詰め込み、学年全員の作品を一つの額に納めて校内に展示する計画である。

本題材はダンボールの断面や重ねたときにできる模様などのデザイン性をいかしたり、切る、剥がす、丸める、重ねる、貼るなどといった簡単に加工できる点などから、中学生としては新しいダンボールの

とらえ方で、小学生から積み上げてきた経験をもとに、さらに内容を発展させた学習を目指したいと考えている。また、アイデアスケッチの段階でモデルを提示し、それについて学級全体で話し合う場を設けている。この活動によって、追体験やアイデアスケッチを深めることにつながり、個人思考や集団思考を高めることに有効であろうと考えている。

(3) このような本題材の素材のもつ魅力と本学級の生徒の実態を踏まえた上で、以下のように展開したいと考えている。

第1次が本時となるが、まず「壁面アート」についてダンボール素材をいかして作品制作を行うことを伝え、提示した箱の中に素材を詰め込んで壁面装飾（レリーフ）作品を制作することを理解させ、表したいことを明確にする。さらには学年全員の作品を一つの額に納め、校内に展示する計画であることも伝え、興味・関心をもたせようと考えている。そこで、箱の中に詰めていくダンボールをどのように加工すればデザイン的なよさが表れるのかを考えさせるため、グループごとにさまざまな厚さのダンボールや片面ダンボールを配布し、それぞれで道具を使用しながらダンボールの断面の構造がそのまま模様になったり、デザインとしての美しさを引き出す重ね方・集め方などを探らせたいと考えている。その際、グループ内で相談したり、ヒントを与え合ったりするといったかかわり合いの姿が見られるであろうと予想される。この時、考えられる加工としてはダンボールを切断し、中芯が見えるように立てたり、それらを重ねたり、表（裏）のボール紙を部分的に剥がし、中芯をわずかに見せたり、片面ダンボールをぐるぐると丸めたり、それを中心から指で押し込んで反対側を突起させたりと、さまざまな表現や表情が見つかるのではないかと考えている。もちろんダンボールの素材をそのまま利用するのもよいことも伝えたい。さらにそれをグループで話し合ったり、加工したそれぞれのダンボールを1枚のボードに貼り付け、まとめたりする。その後に学級全体の場で発表し、さまざまな表現や表情を共有し合うかかわり合いの場を設定している。当然グループによっては他のグループと同じような加工もあると考えられるが、中にはさらなる表現や表情を発見できる可能性を期待する。このかかわり合いによってダンボールの魅力やよさに気づいたり、参考作品の提示、あるいは個人思考と集団思考をつなぐ教師側の仕掛け、コーディネートなどから新たな発見へとつながり、作品制作に活かすことができたりと、思考力・判断力・表現力が高まっていくのではないかと考えている。

第2次では、アイデアスケッチの途中の段階で、モデルのアイデアスケッチについて学級全体での話し合いの場を設け、そのよさや改善点などを発表し合い、よりよい表現方法へつなげていけるように促したいと考えている。2次1時が終了した時点で生徒のアイデアスケッチを集約し、第1次で行った素材のもつ魅力について、共有し合った表現や表情がいかしきれていないものや、さらに工夫の余地があるものを教師側で把握し、モデルを提示する必要がある。この活動を通して、追体験としてさらにアイデアを発展させたり、自分に返ってきたりするようになり、集団思考や個人思考が高まることに期待している。そして、かかわり合いながら新たな発想や多様な表現を生み出すことができるのではないかと考えている。

第3次ではアイデアスケッチをもとに作品制作を進めていく。第1次の活動や制作中に見つけ出したことをいかして発想・構想がさらに深まる場面もあると考える。また、生徒同士が認め合ったり気づいたり、さらには教師側からの提案により、自分がいかしたいことを意識させながら作品制作につなげさせたいと考えている。

第4次では、作品完成後に鑑賞会を行い、制作した作品について、工夫した点や苦労した点などをグループの友だちにプレゼンテーションし、お互いの作品に対する感想やコメントなどをメッセージとして贈り合う。ここでは友だちの作品のよさや素晴らしい点を見つけ、肯定的なコメントを伝えるようにながし、お互いに讃え合う姿勢を育てていきたい。

### 3 展開計画（全7時間 本時1／7）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	ダンボールの素材について、さま	①	・ダンボールの素材をいかした「壁面アート」についての説明を聞く。

	さまざまな表現や表情を見つけよう。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布されたダンボールや片面ダンボールを加工し、どんな表現や表情が作品に生かせるか考える。</li> <li>・グループでボードに加工したダンボールを貼り付けながら意見を出し合い、まとめる。</li> </ul> <p>◇ダンボールの素材について、さまざまな表現や表情を見つけ、グループでまとめた意見を学級全体で発表し合い、表現の多様性を見出す。</p>
2	壁面アートのデザインをアイデアスケッチしよう。①	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁面アートのテーマを決め、制作するデザインをアイデアスケッチする。</li> </ul>
	モデルのアイデアスケッチについてみんなで話し合おう。	3	◇モデルのアイデアスケッチについて学級全体で話し合い、発想や構想につなげ、ダンボールの素材のもつ魅力や表現、表情などを意識して、アイデアスケッチにつなげていく。
	壁面アートのデザインをアイデアスケッチしよう。②		・学級全体での話し合いをもとに、改善したり付け加えたりしながらアイデアスケッチを発展させる。
3	ダンボールを使って壁面アートを制作しよう。	4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアスケッチをもとに、道具を使用しながらダンボールを加工する。</li> <li>・加工したパーツに木工用ボンドを塗布し、箱の底面に接着させるように詰めていく。</li> <li>・ダンボールの素材のもつ魅力をいかし、表現や表情を工夫しながら作品制作を行う。</li> </ul>
4	友だちの作品を鑑賞しよう。	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成作品について工夫した点や苦労した点などをグループの友だちにプレゼンテーションする。</li> <li>・お互いの作品に対する感想などをメッセージとして贈り合う。</li> <li>・学年全員でつくり上げた壁面アートを自由に鑑賞する。(授業外)</li> </ul>

#### 4 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
1	①	◇ダンボールの素材について、さまざまな表現や表情を見つけ、グループでまとめた意見を学級全体で発表し合い、表現の多様性を見出す。	ダンボールの素材について、さまざまな表現や表情を見つけ、それについての話し合い活動に参加し、意見を発表している。	ワークシート 発言	道具を使いながらダンボールを加工し、さまざまな表現や表情を見つけ出し、それについてグループの話し合いで意欲的に意見を発表している。	道具を使いながらダンボールを加工し、さまざまな表現や表情を見つけようとし、それについてグループの話し合いで意見を発表している。	ダンボールについて、さまざまな表現や表情を見つけようせず、グループの話し合いにも参加しようとしらない。
2	3	◇モデルのアイデアスケッチについて学級全体で話し合い、発想や構想につなげ、アイデアスケッチに生かす。	モデルのアイデアスケッチについて気づいたことをワークシートに記述し、学級全体での話し合いに参加して意見を発表している。	ワークシート 発言	モデルのアイデアスケッチについて気づいたことや感じたこと、改善点などを記述し、話し合いに参加して意欲的に意見を発表している。	モデルのアイデアスケッチについて気づいたことなどを記述し、話し合いに参加して発表している。	モデルのアイデアスケッチについて曖昧な記述をし、話し合いにも参加しようとしらない。

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

ダンボールの素材について、さまざまな表現や表情を見つけ、グループでまとめた意見を学級全体で発表し合い、表現の多様性を見出すことができる。

### (2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
1. ダンボールについて、知識やこれまでの経験などを発表する。 ・商品を入れるために使われている。	・本題材で扱うダンボールについて一般的な用途や素材について簡単にふれる。
2. 本題材のタイトルと、制作していく手順や仕組みなどを把握する。	・ダンボールの素材を用いて「花」をテーマに壁面装飾（レリーフ）作品を制作し、一人ひとりが箱に詰め込み、学年全員の作品を1つの額に納めて、「壁面アート」をつくり上げることがを説明する。 ・扱うダンボールや片面ダンボールについても簡単にふれておく。
3. 本時の活動の目標を確認し、見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             ・ダンボールの素材について、さまざまな表現や表情を見つけよう！           </div>	・本時の学習に見通しがもてるように、目標を提示する。
4. グループでダンボールを加工しながら、素材のもつ魅力や表現、表情を見つける。 ・ダンボールの断面を見せるのはどうかな？ ・重ねてみるのもいいかも！ ・表面の紙を剥がしてみよう。 ・ぐるぐる丸めてみるよ。	・生徒たちがダンボールの魅力を引き出しやすいように加工方法を例示し、可能性が多様にあることに気付かせる。 ◎グループでの話し合い活動では、多様な加工ができていくか机間指導を行う。また、話し合いの様子を聞き、グループごとの加工方法や素材を集約しておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">—— 評価の観点（発想や構想の能力） ——</p> <p style="text-align: center;">ダンボールの素材について、さまざまな表現や表情を見つけ、それについての話し合い活動に参加し、意見を発表している。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 発言・ワークシート】</p> <p><b>支援</b> 加工方法についての簡単なヒントを与え、表現や表情を見つけやすいように支援する。</p> </div>
5. 加工したダンボールを1枚のボードに貼り付け、その加工方法についてグループでまとめる。 ワークシートに記入する。	・ボードにはあらかじめ両面テープを貼りつけておき、加工した素材を固定しやすいようにしておく。 ・記入しやすいようにワークシートも工夫しておく。
6. グループごとに見つけた素材の加工方法について発表し、加工した素材も合わせて提示する。	・加工した素材を全体に提示しやすいように、教材提示装置を用いてスクリーンに映しながら発表させる。
7. 各グループで見つけた表現や表情をふまえ、さらに魅力的な加工方法はないか探る。 ・丸めたものを中心から指で押し込んで反対側を突起させるのは？ ・ダンボールを加工しないと。	◎同じような加工方法でも、表現や表情が違ったり、パターンを変えることによってさらに魅力的になったりすることも補足する。
8. 本時を振り返り、ワークシートにまとめる。 ・話し合いからいいアイデアが浮かんだ。 ・早くつくってみたい。	◎本時の学習について、参考になったこと、気づいたこと、深まったことなどをワークシートに記入するよう声をかける。